



川内小学校だより

ゆずり葉

第16号

令和2年2月6日
桐生市立川内小学校発行



豆まき集会！

2/4（火）の体育館で行われた全校活動は、代表委員の児童たちが中心となって「心の鬼を追い出そう」をテーマにした豆まき集会でした。クラスの代表児童が、「自分の中にある心の鬼」を発表しながら、これからに向けての決意表明を行いました。どの子どもも自分の生活を振り返ることで、改めていかなければならない「心の鬼」を自覚し、前向きな生活態度を心がけるということではよいきっかけになると考えられます。



毎年、この日にはご家庭においても、豆まきをされることが多いと思います。自分が小学生の頃は、節分の夕方から夜にかけて、ご近所から「鬼は外、福は内」のかけ声が響いていた情景が記憶に残っています。（私自身は大きな声での豆まきが恥ずかしくて、あまり大きな声は出せませんでした。）

「鬼は外、福は内」のかけ声そのものは皆さん同じだと思いますが、そこに込められた思いは、一人一人様々なものだと思います。私自身は、福は内＝「頑張れる心、

強い心を自身の中に養え）、鬼は外＝「心の中の弱さやずるさを追い払え」という気持ちで豆まきをしますが、皆さんはいかがでしょう。（日頃の生活や行動を改めて振り返るよい機会になりますね。）

2/3（月）は川内5丁目の白瀧姫物語で有名な白瀧神社でも、節分の行事「追難招福式」が執り行われました。織物ゆかりの町としての歴史と伝統ある地域行事です。粛々として行われる儀式に参加させていただきましたが、大変勉強になる

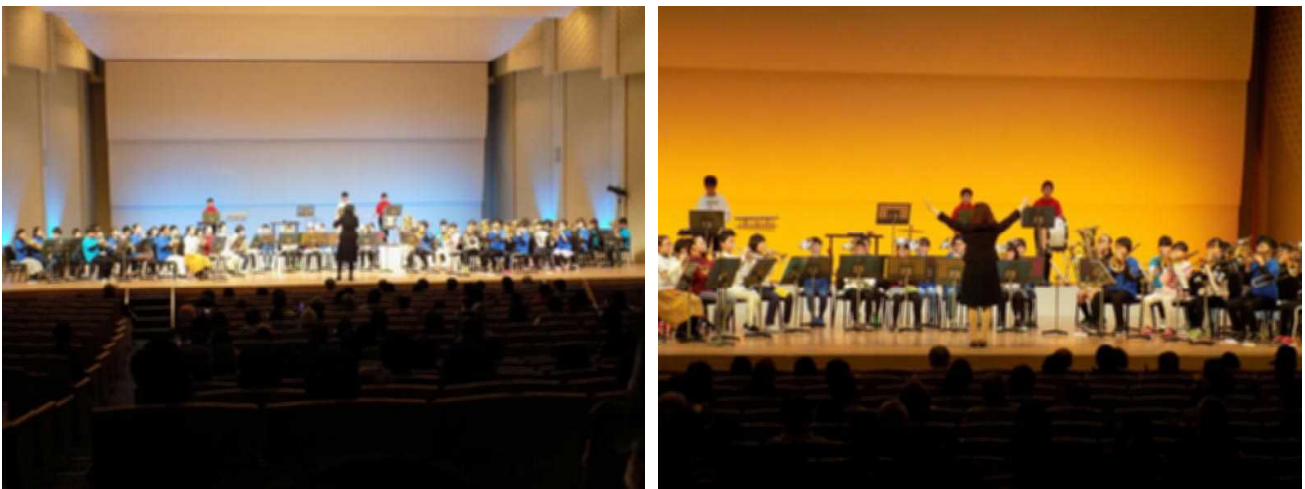


ものでした。地域や関係者の方々も大勢参加されている様子から、川内では大切にされている行事だと実感しました。次の、そして後々の世代にしっかりと引き継いでいかなければならないものだと感じました。

桐生市バンドフェスティバルーすばらしい音色が響き渡りました！

先週の2/1（土）に桐生市市民文化会館において、桐生市小学校バンドフェスティバルが開催されました。川内小は普段から23名の金管クラブの児童が粘り強く練習に励んでいます。こうした地道な取組により身につけた力を披露する場が年に数回ありますが、桐生市のバンドフェスティバルはその中でも最も大きなイベントです。

川内小は梅田南小と相生小との3校合同による演奏でした。普段は各学校で練習を積み重ねて、そして何度か3校が集まり合同練習を重ねての演奏披露でした。披露した曲は3曲です。1曲目は「パプリカ」、2曲目は「ハルノヒ」、そして最後は「ラデツキー行進曲」でした。「パプリカ」はみなさんお馴染みの全国的にヒットした曲で、心地のよいテンポでの演奏で、会場内の人々みんなが楽しんでいる様子でした。「ハルノヒ」も息がそろった演奏で、きれいなハーモニーが響き渡っていました。最後の「ラデツキー行進曲」についてもこれまでの粘り強い練習の成果が発揮され、聴き応えのある素晴らしい演奏でした。私自身、演奏を聴いていて、“よくぞここまで仕上げてきたものだな”と感動ものでした。



この子どもたちにとって、金管クラブの練習を通して培われてきたものは、「楽器演奏の技能」だけではありません。音楽にたくさん慣れ親しむことによる「豊かな情操」、地道に練習を続けてきたことで身につく「粘り強い心」、一緒に練習を重ねてきたことによる「仲間との共同・一体感」を得て、さらには「周囲を思いやる温かな心」など言葉では言い尽くせないくらいあります。ぜひ、ここではぐくまれたものを日常の生活に生かして欲しいと思います。

＜校長室でのひとり言＞

若い世代の人たちの中に、人とのかかわりを「できるだけ減らす・かかわらない」という思想が増えていることを耳にする。確かに人とのかかわりは面倒くさく、やっかいなものであることは間違いない。一方で現代の社会環境は、人とかかわらなくても十分に生きていくことができる状況になってきている。これからの時代、隣近所との・親戚との・家族とのかかわりが、益々希薄になることは避けられない。ある映画を見ていて、近未来で電気や通信関係（ネット、SNS）が使えない状況に陥った世界が表現されていたストーリーがあったが、人と人とのかかわりが薄い状況において、こんな事態になったとしたら考えただけで恐ろしい。

小学校での子どもたちへの指導は、あえて人とのかかわりを意識した働きかけをしていきたい。自分自身、たとえ挨拶の1つであっても、多くの子どもたちとの接点を増やそうと思う。